

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401830		
法人名	有限会社 エス・ワイ・シー		
事業所名	グループホーム クベレ		
所在地	長崎県雲仙市小浜町金浜422-2		
自己評価作成日	平成 27 年 12 月 25 日	評価結果市町村受理日	平成 28 年 3 月 18 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4271401830-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 28 年 2 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、海に面して大きなガラス窓があり、橘湾を一望できる 解放感のある施設です。また テラスからは潮の香りや裏山の椿・ツワの花で季節感を感じることが出来ます。国道を走る車の往来やマラソン・駅伝も近くで見ることが出来ます。家庭的な雰囲気や心がけ、ゆったりと穏やかに過ごせるよう支援をしています。手作りで 野菜をふんだんに使用した料理を提供し、季節の行事食(おやつ)も手作りでしています。近隣の保育園や小学校との交流やボランティアによる慰問も積極的に行っています。体力維持のため 日課として1日2回 テレビ体操を行っています。器械による足のマッサージも行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人内に小規模多機能や居宅介護支援事業所等を併せ持つ当該ホームは、開設11年を迎え、家庭的な雰囲気を大事にしながら入居者の自立支援や自己決定を尊重し介護に努められている。中でも生活リハビリを中心とした支援では、入居者のできる力を維持できるよう職員間で介護方法を話し合うと共に、入居者の思いを家族と相談しながら、その方の生活ペースに合わせた介護に努められている。災害時の地域との協力体制も構築されており、日常的な入居者の笑顔や家族からの感謝の言葉からも信頼や安心が得られている様子も窺われた。定期的に行われている職員研修では認知症の理解をはじめ、接遇マナーや専門的な介護技術の向上に努められており、知識の向上が入居者との穏やかな時間を生み出すことにも繋がっている。入居者の重度化に伴い、外出支援や終末期の対応等課題もみられるが、入居者や家族の思いを大事にする職員の姿に今後さらに期待の持てるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆で考えた理念を掲示し、毎朝「職場の教養」という冊子を通して、介護する時の気持ちを引き締めている。	「ゆったり介護」を理念とし、生活の中で入居者の意思決定や日課に合わせた支援に努めている。朝礼ごとに心の持ち方を示した冊子を復唱することで入居者との関わり方を振り返り、入居者への尊厳の気持ちや介護方針の統一をはかる取組がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの保育園や小学校の行事に参加するなど交流に努めている。また近所のお店にも時々利用者と一緒に出掛けている。	日頃から近隣住民との挨拶や、地域の保育園や舞踊サークルの慰問により入居者と心の交流がある。近隣との関係性も大事にし災害時の協力体制構築にも繋がられている。ホーム沿道より近隣の方と高校駅伝の応援を楽しむ等、地域と入居者の繋がりも大事にした支援に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られた人や、出かけ先などで聞かれた場合には、支援法などを話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。家族の方に運営推進会議の様子を知って頂くため、家族代表は持ち回り形式をとり毎回違う方に出席して頂いている。	定期的に開催される会議では、ホームの行事や取組等の報告がある。前年度より持ち回りで家族が会議に参加することにより、ホームとの繋がりも深まり、忌憚ない意見が出されるようになった。出席者からも地域の情報や、支援方法について質問や意見が出され双方向的な会議がなされている様子も窺われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員には、運営推進会議や、地域ケア会議で会うことがあり、情報交換をしている。	法人代表や管理者はGH連絡協議会の会議出席や包括支援センター職員との接点を多く持ち、現場と行政の仲介役を担うと共に地域の認知症理解や介護職員のスキルアップに取り組まれている。連絡協議会では他職種との繋がりを多く持ち、情報交換を行いながら課題解決に向け取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束はしない。」ことを基本に介助を行っている。困難事例は、全職員で話合って対応している。	拘束は行わない意識を持っており、入居者の行動障害については、不安や恐怖等拘束する事によって生じる弊害を理解し、職員間で対応方法を検討しながら支援に取り組んでいる。現在転倒防止に迅速に対応できるようセンサーの使用はあるが、本人の気持ちを理解すると共に過剰な介助で本人の力を奪わないよう使用方法について意識の統一に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他の介護施設で起きた虐待などの事案を基に、皆で話している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センターの職員と話すこともあり、必要な時はいつも相談できる関係にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個々に説明し同意して頂いている。改定等がある時は一同に集まって頂き、説明や意見交換を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、利用者の様子など話をするようにしている。そこで出た本人・家族の感想や要望等はスタッフ会議等で話している。	家族面会時には身体状況や日頃の様子を伝え、家族と相談しながらその人らしい生活に近付けるよう努められている。事業所便りには、活動の様子が入居者の表情と共に掲載され、生活の理解に繋がるよう働きかけがなされているが、職員の異動や紹介についての家族への周知方法については今後課題と感ずる部分である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングや月1回のスタッフ会議には代表者と管理者も出席し、話を聴いている。必要なことは出来るだけ早く対応している。	定期的に行われる職員会議では、入居者の声や介護の視点について話し合わせ、ケアの統一に努められている。管理者が現場で業務に入ることにより職員の意見を集約し、自主的に動ける関係性も構築されている。今年度は入居者の重度化に伴い福祉車両の購入にも繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から管理者が職員の要望等を聴いており、代表者と相談しながら、働きやすい環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ会議後に勉強会を開いたり、研修会に行ったりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	雲仙市GHや島原半島GH連絡協議会の一員となり、研修会等に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族から聞いていた情報を基に利用者にも色々話しかけて情報を入れている。互いに話やすい関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	基本情報を入手する際、家族の思いや要望を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人・家族または前施設職員から本人の様子を伺ったり、要望等を聞いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活のリズムを保ちながら、その都度本人の意向に合わせた介助をしている。また昔のことを尋ねたり、家事を手伝ってもらったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて電話やメール・ラインを使って連絡し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の面会を歓迎し、記念写真を撮ったりしている。馴染みの神社や公園、お店なども出かけたりしている。	重度化に伴い外出も困難な入居者も多くなっているが、家族と協力しながら自宅への帰省を働きかけ、対人関係の把握や家族行事への出席等の支援を行うことで家族との時間や、住み慣れた場所での思いを繋げることを大事に支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性を考え、座る場所や乗車組み合わせなど決めている。互いに譲り合ったり、手伝ってくれたりとよくされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族や施設に状況を聞いていたり、相談にのったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や様子で利用者の意向を把握している。意思決定が出来る人には、直接訊いている。	生活歴や家族からの話しをもとに本人が望む暮らしの把握に努めている。重度化し積極的に思いを伝えることができない入居者も増えてきたが、入居者が喜びや自分でしようとする仕草を見極めながら入居者の意思を尊重し、その方の生活ベースに合わせた介護に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族等から訊いている。だいたい把握できていると思う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意向を尊重しつつ、自分で出来ることは自分でされるよう声かけ・誘導している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議等で日々の状況や介護サービスについて話し合っている。また 家族面会時では、入居者の様子なども話して、そこで出た要望等も加味しながらプランを立てている。	介護計画作成にあたっては職員間で心身の状態を話し合い、本人の思いや生活の中でできる能力の維持に着目すると共に、家族の意向がとりいれられたものとなっている。本人主体とした、楽しみや意欲に繋がる内容となっており、生活の場であることを意識した支援へと取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個人記録に記載している。毎朝のミーティングでも情報交換しプランの見直しに役立っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況の変化に合わせて 介護の仕方や病院受診などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター職員や民生委員、近隣の保育園、お隣の方との交流を大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重し、受診の支援をしている。	日頃から職員の観察力とこまめな様子観察により、専門医への受診を見極めると共に、症状が軽いうちから主治医に指示を仰ぐなど症状悪化を防いでいる。内服の効果や気付きを話しあい、体調の安定や改善が見られた際には主治医へ減薬を相談し身体への負担を軽減する取組がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回専従の看護師が入居者の健康チェックをするので、気になった事は看護師に相談している。指導により簡単な処置をしたり、受診したりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	時々見舞いに行き、その都度担当医師や看護師に様子を尋ねている。病院の医療連携室とも連絡し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には、重度化・看取りについてホームで出来ること出来ないことを説明している。家族や本人の希望に沿うように努めると共に家族の協力もお願いしている。	入居当時に家族へ看取り指針の説明がなされ、家族と共に医療の必要性が高くなるまでホームで支援しているが、現状では重症化した際には医師や家族と相談の上、医療機関への搬送が中心となっている。ホームでの看取りの経験はないが、今後家族や医師と共に終末期を支える意向にあり、ホームも職員のスキルアップや医療との関係構築を課題に感じている部分であった。	これまで看取りの機会がなかったが、国の方針や家族の意向に沿えるよう現状に課題意識を持たれており、職員研修や、医療との看取りに関する方針の共有しながら今後さらに体勢を整備し取り組む意向にある。より家族の思いに添えるよう職員のスキルアップを図り、更に家族の安心に繋がるよう今後の対応に期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを配布し、時々確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回の全員の避難訓練の他に、3~4ヶ月に1回程度出勤職員のみで消火・避難法をマニュアルに沿って確認している。	年2回の訓練のほか、職員が自主的に避難誘導方法等手法の確認を行い有事の際に備えている。自然災害にも意識を持ち、日頃から雨量や土砂災害に対する注意を払っている。管理者は地域や両隣住民との良好な関係を構築し、協力や応援体制の話し合いもなされている。	昨年の大雨によってホーム駐車場で土砂崩れが発生し、ホーム沿道も土砂災害で頻回に通行止めとなる現状にある。飲料水の確保はなされているが、食材の備蓄が幾分不足しているように伺われ、行政からの応援体制の確認や、職員間で備蓄について話し合いの機会を持ち更なる安心に繋がることを今後期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議などでも話し合うこともあり、注意している。対応で気になった時は、互いに注意し合っている。	家庭的な雰囲気を大事にしつつ、親しみを持ちながらも目上の方との意識を持ちながら関わりを持っている。今年度は接遇マナーの研修に出席し、慣れ合いになった入居者との関係性を考え直す機会となった。今後もホーム理念を振り返り、尊厳を意識しながら入居者に寄り添う方針である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度 どうしたいのか尋ねている。日常の会話の中でもいろいろ聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中はそれぞれ好きなように過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日 行っている。特にお出かけやイベントの日は、それなりの服装をされるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は出来るだけ季節のもの、手作りのものを提供し、完食されている。ゴボウのさがきやネギの根とりなど手伝って頂いている。	食事が入居者の楽しみとなっていることを意識し、咀嚼力が低下した入居者も調理方法を工夫することで形や味わいを楽しむ取組がある。入居者の希望で薄切り肉を重ねとんかつに調理した事例もあった。調理の音や香り、また地元の季節の野菜から四季の移ろいを感じ、食材を通して話題が広がるきっかけにもなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事を作るよう心掛けている。好き嫌いにも配慮し、食べやすい大きさや硬さにも注意している。水分も小まめに促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 歯磨きされるよう誘導・見守りしている。出来ない人には介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できる人には、本人の動きに合わせて誘導・介助を行っている。失禁がある人には、時間を見て声かけしている。	日常生活の中でリハビリを多く取り入れ、できるだけオムツを使わないケアに取り組んでいる。排泄パターンを把握し、その方の排泄量に応じたパットの種類を見直し等個別に対応されている。毎日ヨーグルトを献立に取り入れ食材や軽度の運動を取り入れることで自然排便に繋げる取組もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から野菜をふんだんに使った料理を心がけ、水分補給を促している。体操も午前と午後に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調や気分に合わせて入浴を勧めている。職員との会話も楽しみの様子である。	重度な入居者に対しては状態に応じて安全に入浴できるよう職員体制を整え2名で介助を行っている。入浴時間帯を入居者が選択でき、湯加減や入浴時間を入居者と相談しながらその方の生活リズムに応じた支援を行うよう努めている。個別での入浴時間は入居者と職員が寛ぎ会話を楽しめる時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれ好きな時間に休まれている。本人の希望に合わせて、布団の調整や、温度管理をしている。冬場は加湿にも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬情報を作成しており、マニュアルに沿って服薬介助している。気になることがあれば、医師や看護師に報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや野菜の皮むきなど出来ることをお願いしている。季節の行事に合わせてボランティアの方に来て頂いたり、テラスでおやつを頂いたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に買い物や懐かしい場所までドライブに出かけたりしている。家の法事などに参加できるよう支援している。またテラスでゆっくり外気浴をすることもある。	重度化に伴い、積極的な外出が困難な入居者も多くなっているが、今年度は福祉車両を購入し、日常的な買い物やドライブ等入居者の思いを聞きながら外出に繋げている。ホームが国道に面している立地であることからテラスで市民マラソンの応援や外気浴を行い、また花見や地域行事に出かけるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の意思に任せている。所持されている方には、支払い時に介助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも取り次いでいる。はがきも代筆で出すこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、台所・廊下には仕切りがないので、一目でわかる。国道沿いに面しているが、窓を閉めていると音は気にならない。季節に合った飾りつけをしている。	天井が高く、明るい日差しが差し込むリビングでは、入居者が思い思いの位置やソファに腰かけ会話を楽しみ寛ぎ過ごされている。入居者の目線の高さに設置された掲示板には、入居者の作品や思い出の写真が掲示され、家族や入居者と会話が広がるきっかけにもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングとダイニングが一続きになっているので、好みの場所で過ごされている。廊下の端にもイスを置いているので、そこで日向ぼっこされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、出来るだけ家にあるものを持って来てもらうようにしている。片づけが出来る人には、しやすいように配置を考えている。	車いす利用者や入居者の動線に応じて家具やベッドの向きを考慮し、家族と協力しながらその方らしい居室作りがなされている。手まわり品が使いやすい高さや場所に準備され、それぞれが寛ぎ過ごしやすい環境が整えられている。今後も家族と相談しながら部屋作りを行う意向である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて手すりの増設、居室のネーム貼りなど1人でも出来るように心がけている。		